

授業科目		心理学		担当者		木下 昌也	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	2	30	講義30			1年次 前期	
	実務経験	無					
	その実務経験を生かして行う教育内容						
授業の目標および授業計画	<p><目標> 心や行動に関する基本的な心理学の知見についてまなぶ。これらの知見について自分自身のこととして理解する。</p> <p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目 心理学とは 2回目 「見え」の世界 3回目 愛着①：親子関係の基盤 4回目 愛着②：愛着行動の発達と個人差 5回目 学習①：古典的条件づけ 6回目 学習②：オペラント条件づけ 7回目 学習③：罰について／社会的学習 8回目 学習④：行動療法 9回目 感情：情動の理論 10回目 動機づけ 11回目 欲求不満行動：転位行動と防衛機制 12回目 発達①：幼児期の特徴 13回目 発達②：児童期～青年期 14回目 発達③：青年期 15回目 復習／テスト 						
使用教材および参考文献	<p>テキスト： シリーズ医療の行動科学No.1. 「医療行動科学のためのミニマムサイコロジー」 北大路書房</p> <p>この他、参考資料を適宜配布する。</p>						
評価方法	筆記試験をおこなう。						
備考							

授業科目		人間関係論		担当者		神菌 紀幸	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	30	講義30			1年次 前期	
	実務経験	無					
	その実務経験を生かして行う教育内容						
授業の目標および授業計画	目 標						
	(1) 対人行動の基盤となる個人の心理的過程として；対人認知，帰属過程，対人魅力						
	(2) 対人行動として；自己開示，援助行動，攻撃行動，説得，対人コミュニケーション						
	(3) 対人関係の形成と発展・崩壊						
	(4) 社会的相互作用						
	(5) 集団過程；集団が個人に及ぼす影響，個人が集団に及ぼす影響，集合行動						
	回 授業内容						
	1回目 人間関係論の考え方 社会的相互影響過程①						
	2回目 〃 〃 ②						
	3回目 小集団における社会的相互作用 家庭の分析 ①						
	4回目 〃 〃 ②						
	5回目 対面的小集団における相互作用過程の体験						
	6回目 対人魅力の規定因						
	7回目 小集団における社会的合意形成プロセス						
	8回目 社会的行動の個人的基盤						
	9回目 社会的影響方略の応用						
10回目 小集団におけるコミュニケーションの変容過程							
11回目 小集団における社会的相互作用過程の観察とフィードバック							
12回目 情報処理プロセスと人間関係							
13回目 カウンセリング的関りの日常的人間関係への援用①							
14回目 〃 〃 ②							
15回目 心の動きと人間関係 まとめ 評価テスト							
使用教材および参考文献	参考資料等は講義中，適宜配布する。						
	<参考文献> ・H. H. ケリー／J. W. ティボー著『対人関係論』誠信書房 1995 ・吉森 譲 編著『人間関係の心理学ハンディブック』北大路書房 1991 ・坂口 哲司 著『看護と保育のためのコミュニケーション』ナカニシヤ出版1991 ・加藤 豊比古 編著『人間行動の基礎と諸問題』福村出版 1992						
評価方法	筆記試験・レポートの成績を中心に評価する。						
備考							

授業科目		生活環境論		担当者		西留 清	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	15	講義15			1年次・前期	
	実務経験	無					
その実務経験を生かして行う教育内容							
授業の目標および授業計画	<p>授業目標 生活科学に対する基本的考え方についての概略を学び、生活と健康、室内環境、都市環境を中心に学習すると同時に安全で衛生的な環境を考慮した看護ができるようになる。</p>						
	回	内容					
	1回	生活環境論概要					
	2回	生活と健康	温暖化、オゾン層破壊、酸性雨				
	3回	都市環境	飲み水と健康	大気と健康	室内空気質と健康		
	4回	〃	下水道システム	微生物を利用した下水処理			
	5回	〃	高度水処理	し尿の処理	都市における水利用		
	6回	〃	水の循環	河川湖沼	土壌地下水	有機廃棄物	
	7回	〃	水環境	大気	ごみ	室内環境	環境シミュレーション
8回	〃	環境アセスメント	ライフサイクル				
7回	〃	自然エネルギー	地球温暖化				
8回	〃	まとめ					
使用教材および参考文献	テキスト：新編 生活科学 第2版 東京教学社						
評価方法	出席状況 課題レポートの評価（提出状況・内容）						
備考							

授業科目		論理学		担当者	永里 紘二	
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別	
	1	30	講義30		1年次 後期	
	実務経験	無				
	その実務経験を生かして行う教育内容					
授業の目標および授業計画	<p>授業目標</p> <p>現代論理学の基礎をなす命題論理の意味論と証明論を学び、論理的な推論分析手法を学ぶことにより誤った思考、推論を廃して正しい思考を身に付けることを目指す。</p> <p>回 授業内容</p> <p>1回目 命題、逆裏、対偶 主観と客観について</p> <p>2回目 命題、逆裏、対偶 割合について</p> <p>3回目 日本的な発言を考える 数的処理能力</p> <p>4回目 論理的に正しい発言 接続語の持つ意味</p> <p>5回目 アーギュメントとステイトメントの違いについて</p> <p>6回目 論理的な話し方の基礎をつくる 隠れた前提</p> <p>7回目 日常的な会話の言外の意味 数的処理能力</p> <p>8回目 直感的表現から分析的表現 オノマトペの活用</p> <p>9回目 大雑把な表現を改める</p> <p>10回目 立証責任の転嫁 二者択一</p> <p>11回目 論理力の養成</p> <p>12回目 数的処理</p> <p>13回目 詭弁とレトリックについて</p> <p>14回目 論理的に話すための助言</p> <p>15回目 終講テスト</p>					
	使用教材および参考文献	講義資料は適宜プリントを配布する				
	評価方法	授業中の取り組み及び終講試験により評価する				
	備考					

授業科目		情報科学		担当者	宮田千加良
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義10・演習20		1年次 前期
	実務経験	無			
その実務経験を生かして行う教育内容					
授業の目標および授業計画	<p>授業目標</p> <p>現代の情報化社会において必要不可欠な情報モラルやセキュリティを理解し、問題に対する正しい行動が行えるようになる。また、ワープロソフトや表計算ソフトを用いてレポートや報告書を含む様々な書類を効率的に作成できるようになる。更に、プレゼンテーションソフトを使った資料の作成、およびそれを用いた発表の仕方についての知識を有する。</p> <p>授業計画（内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とリテラシー <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報とは (2) コンピュータに関する基礎知識 (3) コンピュータリテラシー 2. Wordを使った文書作成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的な文書作成 (2) ページ設定、図の作成 (3) 表の作成、図・表文書作成 (4) 表現力をアップする機能 3. PowerPointによるプレゼン資料の作成 <ol style="list-style-type: none"> (1) テーマを決めて情報収集し、プレゼン資料を作成 (2) アニメーション機能の追加 4. Excelを使ったデータ処理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 表の書式設定、ワークシート関数 (2) グラフ作成と編集 (3) データベース処理 (4) WordとExcelとの連携（差し込み印刷） 5. 試験 <p>※1. 情報とリテラシー は2.～4. (Word、Excel、PowerPoint)と並行して授業を行う</p>				
	使用教材および参考文献	<p>教科書</p> <p>富士通エフ・オー・エム株式会社 2016 『情報リテラシー<改訂版> 情報モラル&情報セキュリティ収録 Windows10/Edge/Word2016/ Excel2016/PowerPoint2016』(FPT1715) FOM出版, ¥2,000+税 (ISBN978-4-86510-344-1)</p> <p>使用教材</p> <p>USBメモリ（学校側で一括購入したものに課題用のデータを入れ、授業開始時に配布する） その他、適宜プリントを配布する</p>			
評価方法	<p>使用教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・USBメモリ（学校側で一括購入、授業開始時に配布する） ・授業プリント（適宜配布） ・教科書 看護情報学 医学書院（電子教材一括購入、タブレット端末に既含） 				
備考					

授業科目		教育学		担当者	岩橋 法雄
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義30		1年次 後期
	実務経験	無			
その実務経験を生かして行う教育内容					
授業の目標および授業計画	<p>授業目標 看護者は優れた教育者であることを理解する。それは相手が人に対する行為そのものを中核におく生業とする専門職者だからである。学校教師もその側面を有するが、看護者は学校教師ではない。そこに最初から学校教育から解放された教育の本質を体現できる存在である。このことへの理解を基本にして教育への理解を深めることを目標とする。</p> <p>〈 回 〉 〈 内容 〉</p> 1回目 看護者は高度で深い教養の担い手である ナイチンゲールの果たした役割、看護教育制度の歴史から学ぶ 2回目 考えることを学び実践する：常識を疑う習慣を身につける 3回目 発達 (1) : 人の発達を考える 赤ちゃん学を見直す 4回目 発達 (2) : ことばの発達を考える / 人にとって「言葉」とは？ 5回目 発達障害を考える (1) 6回目 発達障害を考える (2) 7回目 教育とは：教育の概念 8回目 西洋教育思想史から学ぶ (1) : 教育の思想は時代社会の反映 ルソー (エミール) とペスタロッチ (ゲルトルート) を中心に 9回目 西洋教育思想史から学ぶ (2) : コメニウス、オウエン、フレーベル、 モンテッソリーなど上記 (1) 以外の教育思想 10回目 戦後世界の教育と子どもの権利 11回目 ユネスコ・学習権宣言について 12回目 今ひとたび医療・看護と教育 「一条校」問題とその克服 13回目 生涯学習の意味：教授から学びへ 14回目 総復習と質問・討議 15回目 終講試験				
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 参考文献：授業の進行に合わせて適宜紹介する				
評価方法	授業への参加状況と終講テスト。 適宜課すレポート、小テストを加味する。				
備考	教育学の内容に関連しているので、希望があればシラバスを少し変更して、映画の視聴も考えている。「メリーポピンズ」「ドレミの歌」などから一つ選択。				

授業科目	文学		担当者	松田 信彦
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	1年次 後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の古典文学に親しみ、その意義を知る。 2) 文章の音読・黙読を通して、作品に親しむことができる。 3) 現代語訳や解説を聞いて内容や作品の世界を理解できる。 4) 理解した内容について、自分なりの意見や感想が述べられる。 5) 基本的な日本語リテラシー（読み・書き能力）を向上させる。 <p>1回目 古事記概説 2回目 国生み神話 3回目 神生み神話と黄泉の国 4回目 黄泉の国と呪的逃走 5回目 三貴子の出生とうけひ 6回目 八俣の大蛇神話 7回目 稲羽の素戔 8回目 根の堅州国 9回目 八千矛の神話 10回目 天若日子神話 11回目 国譲り神話 12回目 天孫降臨神話 13回目 コノハナサクヤヒメとの婚姻 14回目 海幸・山幸神話 15回目 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p>神話についてのテキストおよび参考資料は、授業時にプリントを配布する。 日本語（漢字）の演習については以下のテキストを使用する。</p> <p>尚文出版：改訂版 漢字とことば 国語学習課題</p>			
評価方法	終講試験（70%）および小テスト（30%）で評価する。			
備考				

授業科目	コミュニケーション論	担当者	近藤 諭
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義15
	実務経験	無	
	その実務経験を生かして行う教育内容		
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <p>私たちが生活を営む社会は、コミュニケーションで成り立っています。本科目では、社会生活を送る上で必要なコミュニケーションスキルの重要性を理解し、方法を学ぶことを目標とします。</p> <p>内容としては、社会学の視野で研究されてきたコミュニケーションに対する考え方を下敷きとして、基本的な知識と視野を獲得します。</p> <p>授業計画</p> <p>1回目 コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 1 そもそもコミュニケーションが成り立つとはどういうことかを考えます。</p> <p>2回目 コミュニケーションが「伝わる」とはどういうことか 2 コミュニケーションを的確に表すモデルには何があるのかについて考えます。</p> <p>3回目 コミュニケーションを成立させる条件について 1 コミュニケーションを支える物理的側面について考えます。</p> <p>4回目 コミュニケーションを成立させる条件について 2 コミュニケーションを支える認知的側面について考えます。</p> <p>5回目 三者関係のコミュニケーション 2者間と3者間でのコミュニケーションの違いを考えます。</p> <p>6回目 ダブルバインド状況のコミュニケーション 矛盾に満ちたコミュニケーションについて考えます。</p> <p>7回目 コミュニケーションが求められる背景 コミュニケーション力ってなぜ必要とされるのかを考えます。</p> <p>8回目 終講試験</p>		
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：使用しない。配布するプリントを使用します。</p> <p>参考文献：E. ゴフマン『行為と演技』1974年, 誠信書房 (ISBN4414518016) ほか</p>	
評価方法	授業内の小課題および終講試験で評価を行います。		
備考			

授業科目	物理学		担当者	西上床 信																
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																
	1	15	講義15	1年次 前期																
	実務経験	無																		
	その実務経験を生かして行う教育内容																			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標 看護活動におけるさまざまな行動、現象の根拠を理解する。</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>自然界、人体のメカニズムと物理学</td> </tr> <tr> <td>2・3回目</td> <td>看護ボディメカニクスの物理</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>身近な圧力</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>呼吸器と吸引の物理</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>循環器の物理</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>点滴静脈内注射の物理</td> </tr> <tr> <td>8回目</td> <td>まとめ（試験を含む）</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	1回目	自然界、人体のメカニズムと物理学	2・3回目	看護ボディメカニクスの物理	4回目	身近な圧力	5回目	呼吸器と吸引の物理	6回目	循環器の物理	7回目	点滴静脈内注射の物理	8回目	まとめ（試験を含む）
回	内容																			
1回目	自然界、人体のメカニズムと物理学																			
2・3回目	看護ボディメカニクスの物理																			
4回目	身近な圧力																			
5回目	呼吸器と吸引の物理																			
6回目	循環器の物理																			
7回目	点滴静脈内注射の物理																			
8回目	まとめ（試験を含む）																			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 物理学 医学書院																			
評価方法	終講試験による																			
備考																				

授業科目	社会学		担当者	近藤 諭
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>【授業の目標】 本科目は、社会と人間の関係性を理解し、社会を理解した人間となる必要があることを学ぶことを目標とします。社会とは、複数の人びとのつながりを可能にするとともに、そのつながりによって成り立ってもいる存在です。単なる「ルール」の集合とも言えそうで、それだけでなく、社会の存在によって私たちが支えられているという、社会と個人のあり方について考えることがこの科目で学ぶ内容です。</p> <p>1回目 社会とは何か 社会とは耳にする機会が多いけどそもそも何なのかを考えます。</p> <p>2回目 社会学の2つの方法 社会の捉え方は様々ですが2つの代表例を取り上げます。</p> <p>3回目 個人、役割、組織 社会と人間の間を捉えるための社会学固有の視点を扱います。</p> <p>4回目 現代家族の諸相 1 現代社会における家族とはどのような集団かを今一度考えてみましょう。</p> <p>5回目 現代家族の諸相 2 世帯に注目すると社会が捉えやすくなることと、医療との関係も見えてきます。</p> <p>6回目 社会の中の逸脱 社会にとって犯罪・逸脱とされる現象について扱います。</p> <p>7回目 現代社会の行く末 現在の日本社会の現状を今一度考えてみましょう。</p> <p>8回目 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：使用しない。 配布するプリントを使用する。</p>			
評価方法	<p>授業内の小課題および終講試験で評価を行います。</p>			
備考				

授業科目	ボランティア論		担当者	財部 マチ子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次 前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの特性である「主体性」「公共性」「無償性」の意味を理解し、ボランティア活動の役割、課題を理解できる。 2. ボランティア活動に参画する意欲を持つ、あるいは活動のきっかけを掴む。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 ボランティアとは何か。 人はなぜボランティア活動をするのか 2回目 ボランティア活動の現状と課題 ボランティアと現代社会 3回目 日本におけるボランティアの普及・推進の歩み 4回目 人と人とのかかわり 児童・障害者・高齢者 5回目 地域社会のボランティア活動 6回目 災害とボランティア活動 国際ボランティア活動 7回目 ボランティア活動の可能性と展望 地域社会に出かけよう 8回目 まとめ 			
使用教材および参考文献	テキスト：ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ (株)みらい			
評価方法				
備考				

授業科目	倫理学		担当者	新名 隆志
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	2年次 前・後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	目 標 人間の行為や道徳について理解し、人間の価値観の形成や尊重について学ぶ。			
	授業計画			
	1回	倫理学と「生命倫理」		
	2回	生命倫理の成立（1）患者の権利		
	3回	生命倫理の成立（2）インフォームド・コンセントの歴史		
	4回	生命倫理の成立（3）生命倫理の基本原則		
	5回	尊厳死（1）日本及び世界の状況		
	6回	尊厳死（2）倫理的考察		
	7回	安楽死（1）日本及び世界の状況		
	8回	安楽死（2）倫理的考察		
	9回	人工妊娠中絶		
	10回	生殖補助医療技術の利用（1）日本及び世界の状況		
	11回	生殖補助医療技術の利用（2）倫理的考察		
	12回	出生前診断（1）日本及び世界の状況		
	13回	出生前診断（2）倫理的考察		
	14回	脳死と臓器移植		
15回	まとめ 終講テスト			
使用教材および参考文献	テキスト：看護倫理 医学書院 参考資料は適宜配布する			
評価方法	筆記試験			
備考				

授業科目	健康と運動		担当者	眞方 麻衣子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	演習30	2年次 前・後期
	実務経験	有	健康運動指導士	
	その実務経験を生かして行う教育内容 心身ともに健康的な身体作りを行う。 日常的に出来る運動を習得すると共に運動の必要性を理解、身体を動かすことの 楽しさを広く伝える。			
授業の目標および授業計画	目標 ストレッチ・レクリエーション等の技術を学び、職場で活用できる技能を身につける。 社会生活に必要な「協調性・自主性」を集団運動の中で養い、総合的な自己能力の向上を図る。			
	回	内容		
	1回目	ストレッチ体験	2人組ストレッチ指導	
	2回目	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	筋膜リリース法
	3回目	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	バランストレーニング
	4回目	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	コアトレーニング
	5回目	チェアストレッチ体操	ストレッチ指導練習	ラダーを用いた歩行トレーニング
	6回目	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	ストレッチポール
	7回目	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	ニュースポーツ
	8回目	ストレッチ体操	ストレッチ指導練習	体力測定
	9回目	ストレッチ資料説明	ストレッチ作成	
	10回目	ストレッチ体操	インボディ測定	
	11回目	ストレッチ発表		
	12回目	ストレッチ発表	サーキットトレーニング	
	13回目	ストレッチ発表	縄跳び 長縄跳び	
	14回目	ストレッチ体操	ストレッチポール	
15回目	ストレッチ体操	ニュースポーツ 筋膜リリース		
使用教材および参考文献	運動に必要な道具については随時準備 教材については、市町村運動指導にて使用している資料を使用			
評価方法	・出席、授業態度、レポート、自主性・協調性による総合評価			
備考				

	授業科目	医療英語	担当者	佐藤 哲三
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	3年次 後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>目標</p> <p>I. 看護および看護に関連する英文文献を解読する能力を養う。</p> <p>II. 医療情報や医療文献を解読、表現する能力を養う。</p> <p>回 内容</p> <p>1回 English Primer: Units 1-2, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>2回 English Primer: Units 3-4, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>3回 English Primer: Units 5-6, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>4回 English Primer: Units 7-8, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>5回 English Primer: Units 9-10, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>6回 English Primer: Units 11-12, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>7回 English Primer: Units 13-14, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>8回 English Primer: Units 15-16, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>9回 English Primer: Units 17-18, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>10回 English Primer: Units 19-20, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>11回 English Primer: Units 21, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>12回 English Primer: Units 22, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>13回 English Primer: Units 23, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>14回 English Primer: Units 24, Medical English, English Conversation & Song</p> <p>15回 総まとめ (テストも含む)</p>			
	使用教材および参考文献	<p>テキスト: First Primer 佐藤哲三 編著者 (東京: 南雲堂)</p> <p>プリント: 医療英語, 英語の歌 (英国国歌も含む)</p>		
評価方法	試験, レポート, 出席を含む平常点による総合評価			
備考				

	授業科目	ボランティア実践	担当者	富吉 良子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	3年次 後期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標 ボランティアの実践活動をすることで「援助し、援助される関係」を体験し、「ともに生きる」ボランティア活動を理解する。</p> <p>授業計画</p> <p>1～2回目 ボランティア活動計画 活動計画書を立案する</p> <p>3～5回目 ボランティア活動実践 学内、夏季休暇及び休日を利用する 1回2時間以上の内容とする ボラバイト（アルバイトの要素を含む活動）と家族介護等は対象外</p> <p>6回目 ボランティア活動実践のまとめ 活動報告書をレポート</p> <p>7～8回目 活動報告会・まとめ 活動「成果」を発表する</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ みらい			
評価方法	出席状況、レポート内容（活動計画書・活動報告書・まとめレポート）の評価による			
備考				

授業科目		細胞・骨・筋肉の構造と機能	担当者	田島 喜久夫
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次・前期
	実務経験	有	看護師	
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 身体の構造、細胞の構造と機能 各器官系統の持つ働き 骨格・筋の機能			
授業の目標および授業計画	身体の構造を理解する。人間にとって各器官系統の持つ働きの意味を理解する。 特に骨格・筋系についての構造と機能を理解する。 回 内容 I 1回 解剖生理の基礎 2回 細胞の構造と機能・人体を構成する組織 3回 人体の構造区分 4回 全身の骨格 骨・関節の構造 5回 全身の筋 筋の機能 6回 骨格筋の収縮機構 7回 不随意筋の収縮 8回 試験			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院 ビデオ、模型などを参考に講義			
評価方法	基本的には出席状況と終講試験			
備考				

授業科目	呼吸・循環・血液・体温調節の構造と機能	担当者	田島 喜久夫・中河 志朗
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	無	
	その実務経験を生かして行う教育内容		
授業の目標および授業計画	<p>呼吸器・循環器系の構造を理解し、生命現象の基本としての認識の上に、呼吸・循環の働きについて両者を関連づけて理解する。身体機能の防御と適応について理解する。</p> <p>I</p> <p>1回 呼吸器の解剖と生理 2回 呼吸と呼吸運動 3回 ガス交換 呼吸運動の調節 4回 循環器 心臓, 心電図 5回 循環器系 心周期 6回 循環器系 血管 7回 循環器系 血圧 8回 循環器系 血圧調節, 微小循環 9回 循環器 病態生理</p> <p>II</p> <p>1回 血液、血漿、造血器官 2回 赤血球、白血球(顆粒球) 3回 無顆粒白血球、血小板、血液凝固と線維素溶解 4回 身体の防御に関与する主な器官 5回 自然免疫、獲得免疫 6回 腸粘膜での防御の仕組み、皮膚の構造・働きと防御系の仕組み 7回 体温とその調節</p>		
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院 ビデオ、模型などを参考に講義</p>		
評価方法	<p>基本的には出席状況と終講試験 終講試験評価 I：60% , II：40%とする。</p>		
備考			

授業科目		消化器・内分泌の構造と機能		担当者	藤島 慶・田島 喜久夫
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義30		1年次 前期・後期
	実務経験	無			
その実務経験を生かして行う教育内容					
授業の目標および授業計画	<p>I 消化器系の構造を理解し、消化・吸収のしくみについて理解する。 II 生体内外の環境の変化に対応する自律神経とホルモンの作用について理解する。</p> <p>〈内 容〉</p> <p>I. 消化器系</p> <p>1回目 消化管総論 2回目 大腸の構造と機能 3回目 小腸の構造と機能 4回目 肝臓・胆のう・膵臓の構造と機能 5回目 胃の構造と機能 6回目 食道・咽頭・口腔の構造と機能</p> <p>II. 内分泌</p> <p>1回 内臓機能の調節 自律神経系：交感神経 2回 内臓機能の調節 自律神経系：副交感神経 3回 自律神経伝達物質とホルモンの受容体 4回 内分泌系：ホルモンの化学構造と作用機序 5回 内分泌系：視床下部・下垂体ホルモン 6回 内分泌系：甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン 7回 内分泌系：膵臓ホルモン、副腎ホルモン 8回 内分泌系：性腺ホルモン、その他の内分泌腺 9回 内分泌系：ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際</p>				
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院				
評価方法	I (40%) : 毎回の講義において行う小テストと終講試験の成績による II (60%) : 終講試験の成績による				
備考					

授業科目	腎・泌尿器・生殖器の構造と機能		担当者	作田 哲也
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	1年次・前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	【目 標】			
	<p>1. 腎・泌尿器の構造と排泄のしくみについて学び体液の調節作用を理解する。</p> <p>2. 『男女の違い』を明確に区別することは実を言えば困難な場合があり、それが個性であることを科学的に学び、生殖器の構造と機能について理解する。</p>			
授業の目標および授業計画	【講義内容】			
	<p>1回目 腎臓の解剖と排尿のしくみ</p> <p>2回目 尿の生成</p> <p>3回目 腎臓におけるろ過</p> <p>4回目 腎臓における再吸収</p> <p>5回目 尿量調節のしくみ</p> <p>6回目 酸・塩基平衡調節</p> <p>7回目 電解質の調節、腎臓と他の臓器との関連</p> <p>8回目 ジェンダーと性スペクトラム、生殖器の分化</p> <p>9回目 Y染色体の役割と性ホルモンの働き①</p> <p>10～11回目 男性生殖器の構造と機能</p> <p>12回目 性ホルモンの働き②</p> <p>13～15回目 女性生殖器の構造と機能、生物学的性の多様性</p> <p>16回目 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 (医学書院)			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業における小テスト (40%) ・レポート (20%) の配分で評価する。 ・講義終了時の終講試験 (40%) 			
備考	<p>☆ 【腎・泌尿器・生殖器の構造と機能】を合格するための3つのポイント！</p> <p>① 課題とされた内容についてレポートを作成する（手抜きをしない！）</p> <p>② 前もって配布される「講義のポイント」の（ ）内への書き込みをしてから講義を受けること → 小テストや終講試験の多くはここから出題されます！</p> <p>③ 前もって配布される「講義メモ」の最後にある＜本日の特に大切なポイント＞をよく読んでおくこと → 小テストや終講試験の多くはここから出題されます！</p>			

授業科目	脳神経・感覚器の構造と機能	担当者	田島 喜久夫
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	無	
	その実務経験を生かして行う教育内容		
授業の目標および授業計画	<p>目標 神経系の構造・機能を理解し、外界の刺激を受容する仕組みや各刺激に応じた反応の仕組みを理解する。</p> <p>回 内容</p> <p>1回目 情報の受容と処理 神経系の構造と機能</p> <p>2回目 興奮の伝達 神経系の構造</p> <p>3回目 脊髄・脳幹の構造</p> <p>4回目 小脳・感応・大脳</p> <p>5回目 新皮質の機能</p> <p>6回目 脳神経と脊髄神経 脊髄神経の構造と機能</p> <p>7回目 脳神経 脳波と睡眠</p> <p>8回目 高次機能 記憶・本能行動・情動行動</p> <p>9回目 中枢神経系の障害 運動ニューロン、下行性伝導路</p> <p>10回目 上行性伝導路 感覚器系</p> <p>11回目 感覚器 視覚器</p> <p>12回目 感覚器 視覚</p> <p>13回目 感覚器 聴覚</p> <p>14回目 感覚器 平衡覚 味覚 嗅覚</p> <p>15回目 感覚器 疼痛</p>		
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 人体の構造と機能 1 医学書院</p> <p>ビデオ、模型などを参考に講義</p>		
評価方法	出席と終講試験による。		
備考			

授業科目	生化学		担当者	作田 哲也
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次・前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	【目 標】			
	1. たべものとして取り入れた栄養素などが、体の中でどのように変化しヒトの健康や生命の維持に関連しているかを理解する。			
	2. 生化学の知識が医療や看護の実践の場で役立つことを学び、これからの医療高度化の中で、科学的根拠に基づいた看護を行うための基本的な知識と思考法を身につける。			
	【講義内容】			
	1回目	生化学ガイダンス 糖質代謝 (1) 糖の分類とエネルギー産生		
	2回目	糖質代謝 (2) 糖鎖の役割と糖代謝調節		
	3回目	脂質代謝 (1) 脂質の役割と種類、消化と体内移動		
	4回目	脂質代謝 (2) ① アセチルCoAと β (ベータ) 酸化 ② 糖新生とコレステロールの合成 ③ ケトン体の生成と脂肪酸の合成 ④ アラキドン酸代謝		
5回目	アミノ酸代謝 ① タンパク質の機能と消化 ② 尿素回路とアミノ基転移反応 ③ 糖新生と生体活性物質の合成			
6回目	代謝のまとめ 遺伝情報 (1) DNAの複製と体細胞分裂			
7回目	遺伝情報 (2) 減数分裂、RNAの転写とタンパク質の翻訳			
8回目	終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野「生化学」 人体の構造と機能 2 (医学書院)			
	サブテキスト : 「生化学 からだの不思議を解き明かす」 (株式会社 じほう) ISBN 978-4-8407-4500-0			
評価方法	・毎回の授業における小テスト (40%) ・レポート (20%) の配分で評価する。 ・講義終了時の終講試験 (40%)			
備考	☆ 【生化学】を合格するための3つのポイント! ① サブテキストをよく読んでレポートを作成する(手抜きをしない!) ② 前もって配布される「講義のポイント」の()内への書き込みをしてから講義を受けること → 小テストや終講試験の多くはここから出題されます! ③ 前もって配布される「講義メモ」の最後にある<本日の特に大切なポイント>をよく読んでおくこと → 小テストや終講試験の多くはここから出題されます!			

	授業科目	栄養学	担当者	隈元 羊子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次・前期
	実務経験	有	管理栄養士	
	その実務経験を生かして行う教育内容 栄養の意義 臨床栄養			
授業の目標および授業計画	目標 健康にとっての栄養の意義と臨床栄養について理解する。			
	回	内容		
	1回目	栄養学の基礎 栄養素の種類とはたらき他		
	2回目	食事と食品 栄養ケアマネジメント 栄養状態の評価・判定①		
	3回目	栄養状態の評価・判定② ライフステージと栄養		
	4回目	生活習慣病予防対策と特定健診・特定保健指導 糖尿病の栄養食事療法他		
	5回目	臨床栄養①		
	6回目	臨床栄養②		
	7回目	臨床栄養③ 他		
8回目	まとめ 終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 人体の構造と機能 3「栄養学」 医学書院 系統看護学講座 栄養食事療法			
評価方法	出席状況と終講試験			
備考				

授業科目	薬理学総論	担当者	兜坂 智浩
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義15
	実務経験	有	薬剤師
	その実務経験を生かして行う教育内容 薬物の薬理作用及び人体への影響		
授業の目標および授業計画	<p>目標：薬物についての概念や薬理学についての基本的事項、即ち薬物の薬理作用および人体への影響を理解する。</p> <p>〈 回 〉 〈 内容 〉</p> <p>1回目 薬理学とはなにか 2回目 薬力学 3回目 薬物動態学 4回目 薬物相互作用 5回目 有益性と危険性 6回目 薬と法律 新薬の開発 7回目 添付文書 8回目 終講テスト</p>		
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院</p>		
評価方法	基本的には終講試験の成績による。		
備考			

授業科目	微生物		担当者	高見 芳野
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次・前期
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	<p>目標：微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する。</p> <p>〈回〉 〈 内容 〉</p> <p>1～2回目 1. 微生物の基礎 細菌、真菌、原虫、ウイルス</p> <p>3回目 2. 感染症の成り立ち 経路、機構</p> <p>4回目 3. 外毒素・内毒素，感染防御</p> <p>5回目 4. 感染防御，自然免疫・獲得免疫：液性免疫・細胞性免疫</p> <p>6回目 5. ワクチン，</p> <p>7回目 6. 感染症の治療</p> <p>8回目 終講テスト</p>			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 微生物 疾病のなりたちと回復の促進 4			
評価方法	基本的には出席状況と終講試験			
備考				

授業科目	病態学総論		担当者	吉牟田直孝
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	15	講義15	
	実務経験	有		医師
	その実務経験を生かして行う教育内容 病的な状態の身体におきている諸変化			
授業の目標および授業計画	<p>目標 基本的な病因と病変の特徴を理解する。</p> <p>回 内容</p> <p>1回目 循環障害 ショックの分類と病態</p> <p>2回目 充血、うっ血、出血、虚血、梗塞、血栓</p> <p>3回目 体液の異常 浮腫</p> <p>4回目 炎症と修復</p> <p>5回目 免疫 自然免疫・獲得免疫</p> <p>6回目 アレルギー</p> <p>7回目 腫瘍と過形成</p> <p>8回目 先天異常</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたち 医学書院</p>			
評価方法	基本的には出席状況と終講試験			
備考				

授業科目		運動器系の疾病と治療		担当者	富吉良子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		1年次・後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 運動器の疾患の特徴と治療・検査				
授業の目標および授業計画	目標 運動器の疾患の特徴と治療・検査について理解する				
	授業計画				
	1回目	骨折とは	骨折の分類	治療	治癒経過 症状 合併症
	2回目	各種の骨折	それぞれの骨折の特徴と治療法	課題：大腿頸部骨折について	
	3回目	大腿頸部骨折について	分類	治療	治癒経過 合併症
	4回目	脊髄・脊柱の疾患	腰椎椎間板ヘルニアについて	課題：腰椎ヘルニアについて	
	5回目	脊髄・脊柱の疾患	関節の疾患	課題：神経損傷	
	6回目	神経損傷	課題：骨腫瘍		
	7回目	骨腫瘍・骨粗鬆症			
8回目	終講テスト				
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 「運動器」 医学書院				
評価方法	終講時の試験 と 小テスト 課題の提出状況				
備考					

授業科目	呼吸・循環器系の 疾病と治療		担当者	森山ゆきみ 吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義	1年次後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 呼吸器の疾患の病態と治療・検査 循環器の疾患の病態と治療・検査			
授業の目標および授業計画	<p>授業目標 呼吸器系・循環器系の疾患の病態と検査・治療について理解する。</p> <p>授業内容</p> <p>[循環器]</p> <p>第1回 心不全の病態と治療</p> <p>第2回 先天性心疾患、脂質異常症、高血圧症</p> <p>第3回 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）</p> <p>第4回 循環器疾患に必要な検査、心臓カテーテル検査・治療</p> <p>第5回 不整脈・心電図・ペースメーカー</p> <p>第6回 心臓弁膜疾患・心筋疾患</p> <p>第7回 胸部大動脈瘤・大動脈解離・閉塞性動脈硬化症</p> <p>[呼吸器]</p> <p>第1回 感染症；風邪と急性気管支炎 インフルエンザ 肺炎 結核</p> <p>～3回</p> <p>第4回 間質性疾患：間質性肺炎 塵肺</p> <p>第5回 気道疾患：COPD</p> <p>第6回 肺循環疾患：肺血栓塞栓症 肺高血圧症 呼吸不全</p> <p>第7回 呼吸調節に関する疾患：過換気症候群</p> <p>～8回 肺腫瘍：肺がん 胸膜の疾患：自然気胸</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院</p> <p>ビデオ，スライド，模型などを参考に講義 適宜資料を配布する。</p>			
評価方法	<p>循環器 50% 呼吸器 50%の評価 終講試験、課題、講義への参加度などで評価する。</p>			
備考	<p>専門基礎；呼吸・循環の構造と機能、専門；患者を正しく診る技術（フィジカルアセスメント）の復習を十分にして講義に臨むこと</p>			

授業科目	保健医療論		担当者	富吉 良子
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	15	講義15	
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 1. 現代の健康問題と医療 2. 医療の高度化に伴う医の倫理			
授業の目標および授業計画	授業の目標 保健・医療の概念と動向を知り、現代における医学・医療や看護・介護・福祉の全体像を把握し、現代医療の実像と将来への展望について理解を深める。			
	回 授業内容			
	1・2回 看護の「心」 生命・健康・病について考える			
	3 回 医療の歴史 現代医学の起源・医療観の変遷			
	4 回 生活と医療 医療制度と保健福祉行政			
	5 回 生活と医療 少子高齢社会・障害者のノーマライゼーションとインクルージョン			
	6 回 科学技術の進歩と現代医療			
	7 回 現代医療の新たな課題 医原病、生命倫理学、医療と法制度、患者の安全、 保健・医療・介護・福祉の展望			
8 回 終講試験				
使用教材および参考文献	テキスト： 総合医療論 医療概論 参考文献： 社会保障・社会福祉 他			
評価方法	課題レポート 10点 出席状況・グループワーク参加度 20点 終講テスト 70点			
備考				

授業科目	社会福祉論	担当者	勝 智樹
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義15
	実務経験	無	
	その実務経験を生かして行う教育内容		
授業の目標および授業計画	目標 社会福祉の概念・歴史的変遷・制度について理解を深め、国民の福祉に対するニーズを学び今後の看護活動に役立てる。		
	回	内容	
	1回目	I 社会福祉・社会保障の意義 社会福祉の基本的性格 社会福祉の歴史的変遷	
	2回目	II 社会福祉の分野とサービスの内容	
	3回目	社会福祉の動向	
	4回目	III 医療と福祉の現状と社会資源の活用 医療保険制度	
	5回目	介護保険制度	
	6回目	年金保険制度	
	7回目	生活保護、障害福祉	
8回目	終講試験		
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 社会福祉 健康支援と社会保障制度 ③ 医学書院 その他：適宜ビデオ等視聴		
評価方法	終講試験による。		
備考			

授業科目	臨床心理学	担当者	畑田 惣一郎
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	有	臨床心理士
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康問題と人間心理との関係 病的状態の心理状態への援助法		
授業の目標および授業計画	目標 健康問題と人間心理の関係について触れ、人間の病的状態における心理状態に対し、どのような援助を必要としているかについて方向性を理解する。		
	1回目	心理学のイメージを表現する	
	2回目	風景構成法	
	3回目	コミュニケーションについて	SST体験
	4回目	コミュニケーションについて	受信、処理、送信
	5回目	心理検査	
	6回目	高齢者用検査	
	7回目	ストレス	
	8回目	Y-G性格検査	
	9回目	バウムテスト	
	10回目	心理面接について	カウンセラーの基本的態度・諸技法
	11回目	思考の傾向、行動療法、認知行動療法	
	12回目	患者への対応	グループ発表
	13回目	患者への対応	グループ発表
	14回目	患者・看護師について振り返り	
	15回目	まとめ レポート	
使用教材および参考文献	必要時資料配布する。 参考文献、図書についてもその都度提示する。		
評価方法	出席点と筆記試験（レポートも含む）で行う。		
備考			

授業科目	臨床薬理学	担当者	兜坂智浩
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	有	薬剤師
	その実務経験を生かして行う教育内容 臨床で用いるおもな薬物の薬理作用		
授業の目標および授業計画	<p>目標：臨床で用いられている主な薬物について、その薬物の作用を理解する。</p> <p>〈 回 〉 〈 内容 〉</p> <p>1回目 抗感染症薬 その1 2回目 抗感染症薬 その2 3回目 抗がん剤 4回目 免疫治療薬 5回目 抗アレルギー薬、抗炎症薬 6回目 末梢神経に作用する薬 7回目 中枢神経に作用する薬 その1 8回目 中枢神経に作用する薬 その2 9回目 心臓、血管に作用する薬 その1 10回目 心臓、血管に作用する薬 その2 11回目 呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 その1 12回目 呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 その2 13回目 薬物代謝に作用する薬物 14回目 皮膚科用薬、眼科用薬、救急薬 15回目 漢方薬、消毒薬</p>		
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 病態生理学 医学書院</p> <p>参考文献：適宜提示する</p>		
評価方法	基本的には終講試験の成績による。		
備考			

授業科目	障害者福祉論	担当者	勝 智樹
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義15
	実務経験	有	障害者支援施設指導員
	その実務経験を生かして行う教育内容 障害福祉の理念・制度 活用の実際		
授業の目標および授業計画	<p>目標 障害者福祉の概念を理解し、現在抱えている問題点や背景を知り、看護職としての役割を学ぶ。</p> <p>回 内容</p> <p>1 国際生活機能分類（ICF）</p> <p>2 身体障害者とその分類に関して</p> <p>3 障害福祉の基本理念（障害者の人権）</p> <p>4 障害者施策の発展</p> <p>5 支援費制度</p> <p>6 障害者福祉のサービス体系</p> <p>7 障害者福祉関連施策</p> <p>対人援助技術を踏まえながら、パワーポイント等を用い進めていく。</p>		
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野</p> <p>社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 1章 2章 4章 7章</p> <p>医学書院</p>	
評価方法	終講テスト		
備考			

授業科目		治療総論		担当者	
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		2年次・前期
	実務経験	有		医師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 身体におきている疾患や症状に対する治療法				
授業の目標および授業計画	<p>目標 おもな疾患に対する治療法について理解する。</p> <p>回 内容</p> <p>1回目 画像診断 (放射線の種類と一般利用、X線診断、CT、MRI、超音波、IVR、血管造影、核医学検査(シンチ, SPECT, PET))</p> <p>2回目 放射線療法 目的・種類と実際・放射線障害と放射線防護</p> <p>3～5回目 手術療法 麻酔とは 外科治療</p> <p>6～7回目 化学療法</p> <p>8回目 終講試験</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 別巻 臨床外科看護総論 別巻 がん看護学</p>			
評価方法	基本的には出席状況と終講試験				
備考					

授業科目	消化器・内分泌系の 疾病と治療		担当者	森山 ゆきみ
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	2年次前期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 消化器・内分泌系の疾患の病態と治療・検査			
授業の 目標 および 授業 計画	<p>目標 消化器・内分泌の疾患の病態と治療・検査について理解する。</p> <p>第1回 消化器疾患の症状とその病態生理 (TBL) 吐血・下血 腹水 黄疸 肝性脳症</p> <p>第2回 食道の疾患：胃食道逆流症 (GERD) 食道アカラシア 食道がん</p> <p>第3回 胃・十二指腸疾患：胃・十二指腸潰瘍 胃がん</p> <p>第4回 腸および腹膜疾患：潰瘍性大腸炎 クロウン病 腹膜炎</p> <p>～5回 腸閉塞 大腸がん</p> <p>第6回 肝臓・胆嚢の疾患：肝炎 肝硬変 肝がん</p> <p>～8回 胆石症 膵臓疾患 (膵炎・膵がん)</p> <p>第9回 下垂体疾患：下垂体腺腫 PRL産生腫瘍 先端巨大症 シーハン症候群 尿崩症 SIADH</p> <p>～11回 甲状腺疾患疾患：バセドウ病 慢性甲状腺炎 甲状腺がん 副甲状腺 (上皮小体) 疾患：原発性副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症</p> <p>第12回 副腎疾患：原発性アルドステロン症 クッシング症候群 原発性副腎皮質機能低下症</p> <p>第13回 代謝疾患：糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症・痛風</p> <p>～14回</p> <p>第15回 終講試験 まとめ</p>			
使用 教材 および 参考 文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 [6] 内分泌・代謝 医学書院</p> <p>適宜資料を配布する。</p>			
評価 方法	終講試験 : 80% TBLや課題等 : 20%			
備考	消化器・内分泌の構造と機能、病態学総論についての知識が必要。			

授業科目	腎・泌尿器・生殖器の 疾病と治療		担当者	福元和彦・吉原 剛 白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	2年次 前期
	実務経験	有	医師・看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 腎・泌尿器・生殖器系の疾患の病態と治療・検査			
授業の 目標 および 授業 計画	<p>目標 腎・泌尿器・生殖器系の疾患の病態と治療・検査について学ぶ。</p> <p>I</p> <p>1回目 腎泌尿器の総論 2回目 腎不全 腎代替療法 糸球体腎炎 3回目 泌尿器悪性腫瘍 腎癌, 前立腺癌, 膀胱癌他 4回目 排尿障害 前立腺肥大 過活動膀胱 導尿 5回目 尿路感染症 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎など 6回目 先天性疾患 性について 7回目 まとめ ストーマ 8回目 腎不全 透析の原理 9回目 糖尿病と腎不全, 透析療法 内シャント シャントの合併症 血液透析の合併症について</p> <p>II</p> <p>10回目 女性生殖器の構造と機能、月経異常、性分化疾患の検査・治療・看護 11回目 性感染症の検査・治療・看護 12回目 子宮腫瘍の検査・治療・看護 13回目 卵巣腫瘍の検査・治療・看護 14回目 乳房腫瘍の検査・治療・看護 15回目 終講試験</p>			
使用 教材 および 参考 文献	<p>テキスト：系統看護学講座 成人看護学〔8〕 腎臓・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院</p> <p>ビデオ, スライド, 模型などを参考に講義</p>			
評価 方法	<p>出席状況, 小テスト, 終講試験</p> <p>I 70% , II 30% の評価とする。</p>			
備考				

授業科目	血液・脳神経系の 疾病と治療	担当者	中河 志朗・森 隆徳 吉田 小百合・穂山 みどり 島津 めぐみ	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	2年次・前期
	実務経験	有	医師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 血液・造血器系, 脳・神経系の疾患の病態と治療・検査			
授業の目標および授業計画	<p>血液・造血器系, 脳・神経系の疾患の病態と治療・検査を理解する。</p> <p>I</p> <p>1回目 赤血球系の異常 (1) 貧血の原因、分類 2回目 赤血球系の異常 (2) 貧血 3回目 白血球系の異常 (1) 白血球減少・増加の原因 4回目 白血球系の異常 (2) 白血病 5回目 リンパ球系の異常 6回目 血液凝固系の異常、血栓、出血傾向 7回目 血小板の異常、輸血</p> <p>II</p> <p>8回目 症状とその病態生理 9回目 疾患の理解 (脳血管障害：くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、TIA、急性硬膜下血腫) 10回目 疾患の理解 (感染症：脳炎・髄膜炎・脳膿瘍) 11回目 疾患の理解 (筋ジストロフィー、重症筋無力症) 12回目 疾患の理解 (パーキンソン病) 13回目 疾患の理解 (認知症) 14回目 疾患の理解 グループワーク (水頭症・もやもや病・ギランバレー症候群・脊髄圧減少症・顔面神経麻痺) 15回目 発表</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 [7] 脳神経 医学書院</p> <p>ビデオ, スライド, 模型などを参考に講義</p>			
評価方法	<p>基本的には出席状況と終講試験 I 50% , II 50% の評価とする</p>			
備考				

授業科目	関係法規		担当者	平田 直美
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	15	講義15	
	実務経験	無		
	その実務経験を生かして行う教育内容			
授業の目標および授業計画	目標 法の基礎的知識および保健医療に関係のある法規を学び、医療従事者としての業務と責任を自覚する。			
	回	内容		
	1回	法規の概念 A. 法規の概念 B. 衛生法規の意義 C. 衛生法規の沿革 D. 衛生法規の分類 E. 厚生行政のしくみ		
	2回	看護法 保健師助産師看護師法		
	3回	医事法 医療法 医療関係資格法 医療を支える法		
	4回	保健衛生法		
	5回	薬務法 環境衛生法		
	6回	社会保険法 福祉法 労働法と社会基盤整備		
	7回	環境法		
8回	終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 看護関係法令		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 医学書院	
評価方法	終講試験による。			
備考				

授業科目	公衆衛生		担当者	財部 マチ子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	3年後期
	実務経験	有	保健師	
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 1. 感染症・学校保健・産業保健・精神保健における現状と課題 2. 母子保健・成人保健・老年保健について地域保健の実際			
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標 地域保健の概要について学び、ヘルスプロモーション活動における今後の課題を知る。</p> <p>授業計画</p> <p>1～2回 公衆衛生の定義と歴史、公衆衛生の活動対象 3回 公衆衛生のしくみ 4回 集団の健康を捉えるための手法 疫学・保健統計 5回 環境と健康 6回 感染症とその予防対策 7～10回 地域保健 母子保健 成人保健 高齢者保健 精神保健 障害者保健 11回 地域保健 歯科保健 難病支援・障害支援 感染症対策 12回 地域の環境と健康について学ぶ 環境問題・保健医療福祉の状況 ヘルスプロモーション活動について 13回 学校と健康 14回 職場と健康 健康危機管理・災害保健 15回 まとめ・終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院</p> <p>参考文献：国民衛生の動向 厚生統計協会</p>			
評価方法	小テスト 終講テスト レポート 等 出席状況・授業態度を参考とする。			
備考				

授業科目	看護の扉	担当者	富吉 良子
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護の主要概念 保健医療システムの中での看護の位置づけ・専門性		
授業の目標および授業計画	授業内容 1. 看護の変遷を知り 看護の定義と役割を理解する。 2. 統合体としての人間を知り、看護の対象を理解する 3. 看護のケアの本質を知り、看護提供の方法を理解する。		
	授業計画		
	1回	I 看護とは	1. 看護とは 2. 看護教育制度
	2回	〃	3. 看護の変遷 4. 看護の定義と目的
	3回	〃	5. 保健師助産師看護師法
	4回	II 看護の対象の理解	1. 統合体としての人間
	5回	〃	2. 健康障害をもつケアの対象の理解 3. 国民の健康状態
	6回	III 看護の理論と実践	看護のプロセス
	7回	〃	
	8回	IV 看護における倫理	
	9回	〃	1. 職業倫理としての看護倫理 2. 患者の意思決定支援
	10回	V 看護援助の基本	
	11回	〃	1. 看護における連携と協働 2. 看護の場に応じた活動
	12回	〃	3. 看護サービスの管理 4. 医療安全と医療の質保証
	13回	〃	5. 国際化と看護 6. 災害時における看護
14回	終講試験		
15回	「看護とは」 パフォーマンス課題の発表		
使用教材および参考文献	テキスト：看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護学1 看護覚え書き 日本看護協会出版 DVDなどを教材に活用		
評価方法	終講試験（80％） 課題レポート（20％）		
備考			

	授業科目	看護コミュニケーション技術	担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	15	講義 13 ・ 演習 2	
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護に必要なコミュニケーション技術			
授業の目標および授業計画	<p>授業目的 看護における基本技術を理解できる。</p> <p>授業目標 1. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を習得する。 2. コミュニケーション障害がある人の特徴と効果的な対応を学ぶ。</p> <p>授業計画 第 1～2回 看護技術とは コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程 第 3～4回 関係構築のためのコミュニケーションの基本 効果的なコミュニケーションの実際 第 5回 オンラインコミュニケーション コミュニケーション障害への対応 第 6回 プロセスレコードの意義と書き方 第 7回 コミュニケーションの演習 第 8回 終講試験</p>			
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I 医学書院</p> <p>プリント、ビデオなどを参考に講義</p>		
評価方法	基本的にはレポート、終講試験の成績による。			
備考				

	授業科目	患者を正しく診る技術	担当者	赤崎里美																																	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別																																	
	1	30	講義20・演習10	1年次 前期																																	
	実務経験	有	看護師																																		
	その実務経験を生かして行う教育内容 一般状態の観察、生命の徴候の正確な測定方法																																				
授業の目標および授業計画	<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントとは何かを理解する。 バイタルサインの基礎的知識を学び、正確な測定方法を体得する。 患者の健康状態を知るためのフィジカルアセスメントの基本を理解する。 <p>授業計画</p> <table border="0"> <tr> <td>I</td> <td>1回</td> <td>ヘルスアセスメントの概念・技術 セルフケア能力のアセスメント 全体の概観</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2回</td> <td>フィジカルイグザミネーション (視診・聴診・触診・打診)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3回</td> <td>バイタルサイン測定の観察とアセスメント</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4～7回</td> <td>バイタルサイン測定の実際 (協働学習 演習含む)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8回</td> <td>バイタルサイン測定 (体温・脈拍・呼吸・血圧の異常)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9回</td> <td>その他の計測</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10回</td> <td>呼吸器のフィジカルアセスメント</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11回</td> <td>循環器のフィジカルアセスメント</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12回</td> <td>消化器のフィジカルアセスメント</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13～14回</td> <td>演習 呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15回</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>				I	1回	ヘルスアセスメントの概念・技術 セルフケア能力のアセスメント 全体の概観		2回	フィジカルイグザミネーション (視診・聴診・触診・打診)		3回	バイタルサイン測定の観察とアセスメント		4～7回	バイタルサイン測定の実際 (協働学習 演習含む)		8回	バイタルサイン測定 (体温・脈拍・呼吸・血圧の異常)		9回	その他の計測		10回	呼吸器のフィジカルアセスメント		11回	循環器のフィジカルアセスメント		12回	消化器のフィジカルアセスメント		13～14回	演習 呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション		15回	終講試験
I	1回	ヘルスアセスメントの概念・技術 セルフケア能力のアセスメント 全体の概観																																			
	2回	フィジカルイグザミネーション (視診・聴診・触診・打診)																																			
	3回	バイタルサイン測定の観察とアセスメント																																			
	4～7回	バイタルサイン測定の実際 (協働学習 演習含む)																																			
	8回	バイタルサイン測定 (体温・脈拍・呼吸・血圧の異常)																																			
	9回	その他の計測																																			
	10回	呼吸器のフィジカルアセスメント																																			
	11回	循環器のフィジカルアセスメント																																			
	12回	消化器のフィジカルアセスメント																																			
	13～14回	演習 呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション																																			
	15回	終講試験																																			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：「系統看護学講座 専門 基礎看護技術 I」医学書院 「写真でわかる実習で使える看護技術」MCメディカ 「看護技術 プラクティス」学研ゲイカル秀潤社 「看護がみえる フィジカルアセスメント」メディックメディア プリント、DVDなどを参考に講義</p>																																				
履修条件	バイタルサイン測定の技術試験を合格し、終講試験の受験資格が得られることとする。																																				
評価方法	課題 10% 演習 20% 終講試験 70%																																				

授業科目		呼吸・循環・体温を整える技術	担当者	赤崎 里美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義24・演習6	1年次 前期
	実務経験	有	看護師	
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 機能障害のメカニズムと主な症状に対するケア 医療機器の原理			
授業の目標および授業計画	授業目標 1. 酸素・人工呼吸療法の目的と方法を理解する。 2. 排痰ケア、一時・持続吸引の目的と方法を理解する。 3. 体温調節、末梢循環促進ケアの目的と方法を理解する。 4. 医療機器の原理と実際を理解する。			
	授業計画 1回 罨法（冷罨法・温罨法） 2回 体温管理の援助技術、末梢循環促進ケア 3回 吸入療法とは、酸素吸入療法 4回 薬物吸入療法 5回 排痰ケア（体位ドレナージ）演習 6回 吸引（一時的・持続的吸引） 口・鼻腔吸引・気管内吸引 7回 胸腔穿刺 8回 輸液ポンプ・シリンジポンプ 9～12回 演習（酸素吸入・酸素ポンベの取り扱い・喀痰吸引） 13～14回 演習（輸液ポンプ・シリンジポンプの使用） 15回 終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社			
評価方法	課題：20% 演習：10% 終講試験：70%			
備考				

授業科目		環境調整・活動・休息 の援助技術		担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義 14 ・ 演習 16		1年次 前期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 環境調整技術 活動・休息援助技術				
授業の 目標および 授業計画	<p>目的 日常生活における対象のニーズに応じた援助技術を習得する。</p> <p>目標 1. 環境および療養生活の構成要素を理解し、病室・病床環境のアセスメントと調整ができる。 2. ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換ができる。 3. 睡眠と睡眠障害とその援助方法について理解する。 4. ボディーメカニクス、体位変換、移乗・移送について理解し、実施することができる</p> <p>授業計画 I 「環境調整技術」 第1回 環境とは、療養生活の環境 第2回 病室の環境のアセスメントと病床を整えるための基礎知識 第3回 ベッド周囲の環境整備についてグループで考える 第4回 演習 リネンの畳み方、ベッドメイキングの実際 第5回 演習 一人で言うリネン交換、一人で言う臥床患者のリネン交換 第6回 演習 二人で行う就床患者のリネン交換 第7回 演習 技術テストについて、</p> <p>II 「活動・休息援助技術」 第1回～2回 睡眠の種類・メカニズム、睡眠障害のアセスメント・援助 第3回 運動・活動とは、基本的活動・ボディーメカニクスについて 第4回 活動・運動の援助（姿勢、体位、良肢位、ポジショニング）について 第5回 演習（ベッド上での水平・上方移動、体位変換、ポジショニング） 第6回 演習（起き上がり、立ち上がり、杖歩行時の援助） 第7回 演習（車いす・ポータブルトイレへの移乗） 第8回 演習（ストレッチャーへの移乗・移動、車いすへの移乗・移動）</p>				
	使用 参考 教材 および 文献	系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 学生のための ヒヤリ・ハットに学ぶ 看護技術 看護技術プラクティス 写真で分かる 実習で使える看護技術 フロレンス・ナイチンゲール 看護覚え書き			医学書院 医学書院 学研 インターメディカ 日本看護協会出版
評価 方法	基本的には演習、リフレクションシート、終講試験の成績と、 看護技術試験で評価基準に到達していること。 I：50%、II：50%の評価とする。				
備考					